

## 「新潟市の小中一貫した教育」 Q&A

Q 1 「新潟市の小中一貫した教育」とは、何を目指しているのですか？

⇒A 新潟市教育委員会では、幼稚園・保育園・認定子ども園等と小学校、小学校と中学校のそれぞれの接続期の課題解決を目指した、「就学前から義務教育修了までの一貫した教育」を推進しています。

この「新潟市の一貫した教育」の目的（「各校種間において、子どもの良さを共有し、認め、伸ばしていくことで自己肯定感を育てること」）を踏まえて、小中学校を対象にした「新潟市の小中一貫した教育」では、全市一元的な取組を進めるのではなく、広範囲な新潟市における各中学校区の地域特性を生かした取組や、各校の特色ある教育実践を大切にすることにより、独自性や主体性を大切に、小中一貫した教育を展開することを目指しています。

Q 2 義務教育学校などのような取組を目指しているのですか？

⇒A 小学校の全教育課程と中学校の全教育課程を繋ぎ、新たな教育課程をつくることを目指しているわけではありません。小学校と中学校の校種の違いや、教育活動の良さをそのまま尊重するとともに、8区56中学校区という広大な範囲の中には、それぞれの地域や学校の今までの営みの良さがあるので、それもそのまま尊重していきたいと考えています。

Q 3 小中一貫した教育に取り組む必要性とは何ですか？

⇒A 小中学校が同一の方針をもって教育活動を行うことで、9年間の小中学校教育を通じて、子どもたちの自己肯定感を高めなければならないと考えています。そのためには、小中学校で教育活動に対する異なる認識を相互に理解し、特に裁量の幅が広い総合的な学習の時間においては、9年間を通じて身に付けさせたい資質・能力の育成のために、これまでの学習活動を新たに位置付ける必要があると必要と考えています。その検討の機会是小中一貫合同研修会であり、学校運営マネジメントの観点からこの研修会のより一層の充実が必要です。

Q 4 実際に、「小中一貫した教育」では、どのようなことに取り組むのですか？

⇒A Q1～3で記述したことを進めるために、市内全ての中学校区で、地域特性や教育課題を踏まえた「目指す子どもの姿」（目標）を設定し、この姿の実現に向け、手段として「共通プログラム」「独自プログラム」に取り組んでほしいと考えています。

Q 5 「目指す子どもの姿」（目標）とありますが、何のために、どのような考え方をもち「目指す子どもの姿」を考えればよいのでしょうか？

⇒A 小学校と中学校の校種の違いや教育活動の良さを、そのまま尊重した上で連続性をもたせたいと考えています。そのため、小中学校の職員が現在行っている9年間の教育活動を通じ

て、育成したい子どもの姿を考えることにより、連続性をもたせてほしいと考えています。また、小・中学校の職員が気持ちを一つにしてその達成に向けて取り組んでほしいと考えています。例えば小・中学校の職員がファシリテーションなどで、小中を通じて育んでいきたい資質・能力や意欲などを導き出し、まとめ・精査したことを「目指す子どもの姿」に位置付けることは有効です。その際、「目指す子どもの姿」を達成する取組は主に、生活科・総合的な学習の時間であり、その関連を考えておくことも大切です。「小中一貫した教育」への取組は、まず「目指す子どもの姿」の設定からと考えています。

Q 6 「共通プログラム」のうち、教育課程に関わるものは、「9年間を見通した生活科・総合的な学習の時間」と「9年間を見通した学習の仕方」ですが、「道徳」や「特別活動」を取組の柱にして実施してはいけないのですか？

⇒A 新潟市では、「学・社・民の融合による人づくり，地域づくり，学校づくり」を重点に教育実践を進めてきました。この重点と関わり深く，地域と連携を進めたり，小学校と中学校の教育課程において，児童生徒や地域の現状を踏まえて柔軟に学習活動を行ったりすることができるのは，「生活科・総合的な学習の時間」であると考えています。また「9年間を見通した学習の仕方」については，教科指導の内容は学習指導要領で示されていますが，小中学校を通じて学習指導の方法や家庭学習の方法を検討・実施することで，子どもたちはより一層学習内容を習得できると考えています。必要があれば，「道徳」や「特別活動」等は「独自プログラム」として実践をお願いします。

Q 7 「9年間を見通した生活科・総合的な学習の時間」は，小学校と中学校の学習内容が違います。どのように小中一貫した取組を考えればよいですか？

⇒A 前述しましたが，小学校と中学校の校種の違いや教育活動の良さを，そのまま尊重した上で連続性をもたせたいと考えています。そのために，現在行っている生活科・総合的な学習の時間の学習單元の中から「目指す子どもの姿」の達成のためとなる学習單元を明確にし，達成に向けてどのように工夫して学習活動を行うのかを一覧表にまとめてください。それにより小中学校の職員の共通認識を図ったり，学習活動の接続や一層の充実を考え実践したりしてほしいと考えています（一覧表については，「様式2 各中学校区における小中一貫した教育の取組2」を参照してください）。

Q 8 「9年間を見通した学習の仕方」は、『新潟市の授業づくり』で推進している「学習課題とまとめ，振り返り」について行えばよいのですか？

⇒A 「学習課題とまとめ，振り返り」とともに，各中学校区の子どもの現状を踏まえて考えてください。その視点としては，子どもたちがどのように授業に臨むのか，家庭学習はどのように行えばよいのか，保護者と一体となって家庭学習の指導を進めるためにはどうすれば

よいか、また職員が学習指導に当たって共通して心掛けることは何かなど、様々な視点があるかと思います。その中で各中学校区において、必要な視点をもって考えてください。一例ですが、〇〇中学校区学習スタンダードのようなものをつくるなどと、考えてもらうと分かりやすいと思います。但し、その際には、新潟市教育委員会リーフレット『新潟市の授業づくり』や『新潟市の家庭学習』に基づいて検討してください。

Q 9 今までも、小中学校で連携して職員研修を実施してきましたが、「小中一貫した教育」になると何か新しい研修をするのですか？

⇒A 上記の「目指す子どもの姿」の検討・設定や、「9年間を見通した生活科・総合的な学習の時間」と「9年間を見通した学習の仕方」の検討・立案を「小中一貫合同研修会」において行ってください。今まで人権教育研修会や合理的配慮研修会などを実施してきたと思いますが、それは継続して構いません。また各中学校区の地域特性や、教育課題を踏まえた研修についても同様です。

Q 10 「働き方改革」が求められている中、より一層の多忙感に繋がりませんか？

⇒A 多くの中学校区で、年1～2回程度の小中職員研修会を実施しています。その機会を用いて、前述した学校経営マネジメントの観点から、研修会の充実を図ってほしいと考えています。無理のない研修会の回数になるよう考慮してください。

Q 11 独自プログラムに取り組む良さは何ですか？

⇒A 前述をしましたが、各中学校区の地域特性や教育環境、課題を踏まえた「新潟市の小中一貫した教育」を目指すためでもあります。そこで、今まで各中学校区で行ってきた取組を独自プログラムで行い、これまで、中学校区で伝統的に行ってきた取組を大切にしていきたいと考えています。また、学校課題を解決するために、総合的な学習の時間における取組以外でも大切にしたい取組があると思います。そのような取組を独自プログラムに位置付けてください。